

第27回（2018年度）

## 全国カトリック学校 校長・教頭合同研修会 実施報告

### 「21世紀を生き抜くカトリック学校」



日 時： 2018年6月21日（木）～22日（金）

会 場： 研修会/ KKRホテル大阪  
ミ サ/ 大阪カテドラル聖マリア大聖堂（カトリック玉造教会）

主 催： 日本カトリック小中高連盟

テーマ「21世紀を生き抜くカトリック学校」

6月21日（木）

13:00 受付（3階 ロビー）

13:30 開会式（3階 銀河）

司会進行

大阪明星学園中学校高等学校

副校長 山崎 貢

祈り

大阪星光学院中学校高等学校

校長 鈴木 英史 神父

開会挨拶

日本カトリック小中高連盟委員長

校長 鳥越 政晴 神父

京都教区

教区長 大塚 喜直 司教

実行委員代表

大阪明星学園中学高等学校

校長 松田 進

14:00 基調講演

「愛することより大切にすることを求めたい」

フランシスコ会司祭

本田 哲郎 神父

講師紹介

大阪明星学園

理事長 馬込 新吉 神父

15:45 報告（1）

「21世紀型教育について」

香里ヌヴェール学院

学院長 石川 一郎

報告（2）

「学校法人同士の連携について」

城星学園中学校高等学校

教頭 岩城 志門

大阪星光学院中学校高等学校

教頭 宮本 浩司

18:00 情報交換会・懇親会（3階銀河）

挨拶・乾杯

日本カトリック学校連合会

理事長

海星学園（長崎）

理事長

坪光 正躬 神父



「愛することより大切にすることを求めたい」

フランシスコ会 本田 哲郎 神父

釜ヶ崎で生活するようになって27年と半年が経ちました。その間管区長から移動の内示、辞令が届いたのですがお断りして現在に至っています。それはフランシスコ会の会憲、会則に基づいての行動でした。会則には、「会員たちは地域の最も貧しい人たちの間に共同体を置き、その仲間たちと運命を共にする」とありそれによって判断しました。会の移動に従わないことで除名されるなら受け入れるが、会憲を守ろうとするために退会など考えたことはなかったのです。その後「釜ヶ崎に任命する」という辞令が届き、27年間過ごしてきました。不従順の証しとしてここにいたのですが、もしも「釜ヶ崎よりももっと大変な地域があるから行ってくれ」と言われたら喜んで行かせてもらいます。27年間は誇りでもなく、私は大事にしたいものを大事にしてきたのです。



今日ここで先生方にお話ししたいことは、ミッション系の学校を出た子どもたちがかなり悩んでいるということです。

「キリスト教って何が核心なのですか？」それに「愛を実践しましょう」ともし学校で教えているなら、生徒たちにとってはとてもつらいことになります。

それは第一に「愛する」というのは努力してできるものですか？愛そうと努力しても好きにもなれないこともあります。自由自在に好きになる、嫌いになるということはできないのです。私たち教員間でも努力しても好きにはなれない先生もおられるでしょう。愛（アガペー）は途絶えることはない（コリント13）とありますが、現実にはアガペーは途絶えているケースのほうが目につきます。私たちはどうしたらキリスト教精神、福音を実践できるのでしょうか。アガペー、自分を愛するように隣人を愛しなさい、さらにあなたの敵をも愛しなさいと教えています。

しかしアガペーとは好き、愛情を持てるというものとは無関係なのです。

アガペーとは **“to feel and exhibit esteem and goodwill to a person”**

好きか嫌いか、愛情を感じるか感じないかそんなことは問題にしていません。相手を大切にする、自分に本気で向き合ってくれる、それがアガペーなのです。相手が誰であれ、その人として大切に思う気持ちです。相手の尊厳を大切にする、関わることです。

「～わたしは、愛さなければ、という思いから、良かれと思うことをしてあげようとして、相手の気持ち、相手の本当の望みに気付けなくなっていました～」(資料より)

愛の弱点はここに 있습니다。愛は押しつけを可能にしてしまうのです。「自分を愛するように隣人を愛しなさい」を生徒たちに押しつけないでいただきたい。いくらキリスト教精神による学校教育であったとしても。教会がアガペーという名のもとに大事にしてきたのは「大切にすること」なのです。好きになれと言ってるんじゃない、是が非でも愛情を感じるまでに頑張りなさいと言っているのでもない。

キリスト教の精神が大事にしているのは、ギリシア語で表現するなら間違いなく「アガペー」です。しかしそれを簡単に「愛」だなんて訳してごまかさないでほしいのです。

それをすれば困るのは自分を守るスキルを持っていない子どもたちです。キリスト教の教えが弱い立場の人たちを悩ませてしまうような結果にははいけません。

キリスト教学校の先生方がよくする質問に「神様はどこにいらっしゃるのでしょうか？」というものがあります。この古くからの問いかけはいくら優しく問いかけてもきつい質問です。

そして答えは「神様はどこにでもおられます」どこにでもおられるとはずいぶん安っぽい神様ですね。この質問のおかしさに私たちは気付く必要があります。

それは旧約聖書の詩編の中にも見ることができます。

詩編 41 では「お前の神はどこにいるのか？」の質問に「泣くしかなかった」つまりどうすることもできない、答えようがない姿です。

その答えは詩編 139 に表れています。「神よ、あなたは前から後ろからわたしをかこみ、み手をわたしのの上に置いて行ってください。神よ、あなたはわたしが歩くのも伏すのも見分け、わたしの道にことごとく通じておられる」に見ることができます。

詩編 41 は私がここにいるのは間違いはないが、では「私の神様はどこにいるの？」つまり自己中心的な発想から出てくる問いかけであり、その中には答えは見出せないのです。

しかし「私はどこにいるの？」という問いかけに詩編 139 は「あなたは神様の中にいるんですよ」「神様のふところの中にいますよ」「前から後ろから神はあなたを包み込んでいますよ」と私たちは神様の中で生きていることを示しています。

「神はどこにいるんだ？」の答えを要求するような教え方はおかしいと思うのです。生徒の側に立って、生徒に伝わるように教えているのか、この研修会で見直してもらいたいのです。出来ないことを要求され続けているなら生徒たちは息が抜けないのです。

また、キリスト者の側から、ミッションスクールのスタンスとして生徒たちに何を求めているのでしょうか。

「あなたたちはこのミッションスクールでいろいろなことを学んでいます。その学んだことを家に帰って、あるいは他の友達に分け与えてください。」そんなこと言ってないでしょうか。

教会はこれまで平気でそれをやってきたのです。「福音を告げ知らせるといのは、種まきです」

しかし、イエスは一度も自分と弟子たちの働きの成果を種まきにたとえたことはないのです。

ヨハネ 4 章ではっきりと「私は弟子たちを種まきのためにではなく、刈り入れのために派遣しました」と言っています。第二バチカン公会議が、古い信仰に慣らされた私たちに新しい提案を示しました。たとえば「他宗教との対話」です。これまでカトリック教会は他宗教に対して上から目線で見ることが多かったのですが、対等な立場で話をする、対話なのです。

そして対話の大前提は相手を尊重する、宗教として尊重することです。教会は昔とは違い他宗教に対して寛容になっています。

さらに教会の問題点は、「教会の外に救いはない」という考え方です。「皆さん、教会に来ないと救われないんですよ」さらに「御言葉をみんなにも知らせてあげよう」と言い続けてきました。

しかしイエスも弟子たちも、「あなたたち、何も持っていかなくていいですよ」「手ぶらで行きなさい」「何も必要はない」と言われています。

キリスト教的な発想「分けてあげる側に立つ」「教えてあげる側に立つ」というふうに思い込まされてきましたが、イエスは「私はあなたたちを子羊のようなものとして派遣する、だから蛇のように感性鋭く、鳩のように率直に行動しなさい」何も自分を守るものを持たない弟子たちが身に着けざるを得ないものは、敏活と率直さでした。それが唯一身を守るすべでした。

福音宣教とは教えに行くのでもなく、組織をそこに植え付けるために行くんでもない。むしろ実りを褒めて、賛同して共有させてもらうのです。だからミッションスクールだからといって私たちは生徒たちに社会に出た時のために、何かを仕込む場ではない。そうではなく単純にびっくりするような子どもを育てたらよいのです。それこそがキリストがもたらそうとしている福音の中身です。

#### I コリント 13 章「アガペーの賛歌」(資料参照)

努力して愛することは不可能ですが、大切にすれば可能なことです。努力の範疇なのです。好きでなくなっても相手を大切にすることはできます。

イエスはみんなを同じように愛したのではないのです。律法学者やファリサイ派、サドカイ派、大祭司、長老たちのことは大嫌いだったのです。イエスは決して彼らを愛していなかったのです。それでも最後まで喧嘩し続けた、諦めていなかった、切り捨てていなかった、つまり大切にしていたからなのです。敵をも大切にしてくださいということはそういうことなのです。彼らに対する態度を模範として示したのです。相手を見捨てることはなかったからこそ言い続けたのです。十字架上で殺されるまで言い続けたのです。それほど大切にしましたのです。

本田神父様 訳 ローマの人々への手紙 13 章 (資料参照)

